

## 内航海運における輸送動向調査結果について [2014.6]

2008年における米国の金融危機に端を発した景気後退の煽りを受け、日本経済は悪化し、それに伴って国内の海上荷動量は減少しました。

その実態を把握する目的で、内航海運の貨物船・油送船の主要元請オペレータ 60社における輸送量（内航輸送量全体の80%以上を占める）について、毎月末に調査を行っています。

2014年5月末の調査結果は以下の通りです。

### <概要>

1. 貨物船の輸送量は、2008年10月を境に急速に減少し、2009年3～5月に掛けて前年同月比は60%台の低い水準まで落ち込みましたが、2009年10月にはリーマンショック直前の輸送量に対する比率は80%台まで回復しました。

2011年3月に発生した東日本大震災の影響を受けて再び減少に転じた後、回復の足取りに力強さを欠ける状態が続いていましたが、昨年後半から一般的に荷動きの改善が見られるようになりました。

鉄鋼は3月までの堅調な流れが4月も続いています。自動車も同様で4月は消費税増税前の駆け込み需要の積み残し輸送で好調。セメントは復興需要、民需・官需の高まりを受けて前年比で増加傾向が続いています。紙・パルプ、雑貨についても3月輸送分の積み残し輸送が見られました。原料は前年比増加も工場の定修等の影響がありました。

なお、2014年4月（実績値）における貨物船の輸送量は18,657千トンとなり、前年同月比111%で前年を上回っています。輸送主要品目別の前年同月比は、鉄鋼が116%、原料が102%、燃料が119%、紙・パルプが106%、雑貨が101%、自動車が115%、セメントが120%となっています。

2. タンカーの輸送量は、2008年8月から減少を始め、2009年4月には前年同月比で90%を割り込みました。

2011年6月には原発の不稼働に伴う電力向け需要の増大を反映して、黒油の輸送量増加が全体を押し上げたことから合計輸送量は前年を上回り、改善傾向となりましたが、2012年10月以降は前年同月比を下回る結果が見受けられます。

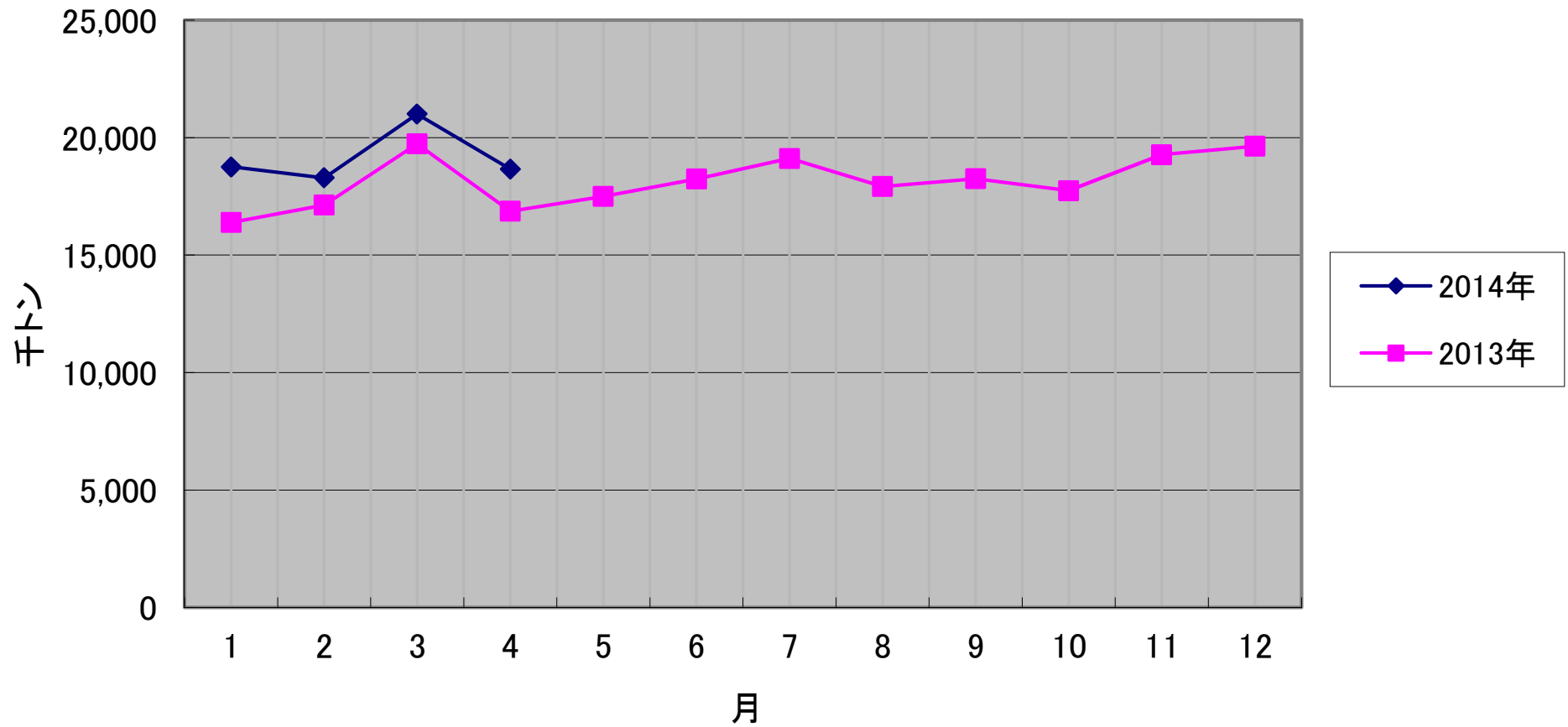
なお、2014年4月（実績値）における油送船の輸送量は、「エネルギー供給構造高度化法」による国内転送の増加等により10,614千klで前年同月比104%となり前年同月比を上回る結果となっています。

輸送品目別の前年同月比は、黒油が105%、白油が103%、ケミカルが92%、高圧液化が113%、高温液体が97%、耐腐食が113%となっています。

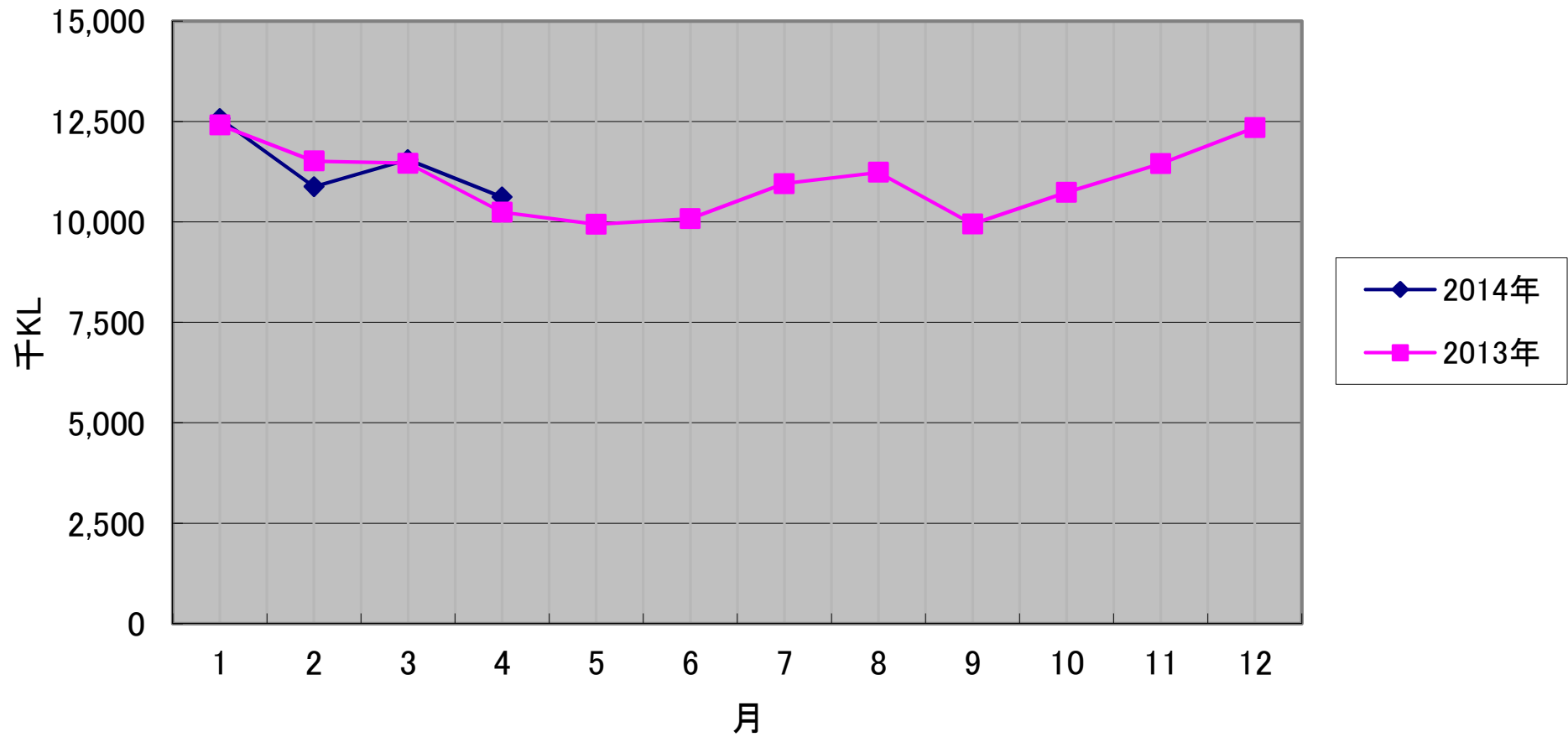




内航輸送主要元請オペ60社【貨物船】 輸送実績の推移



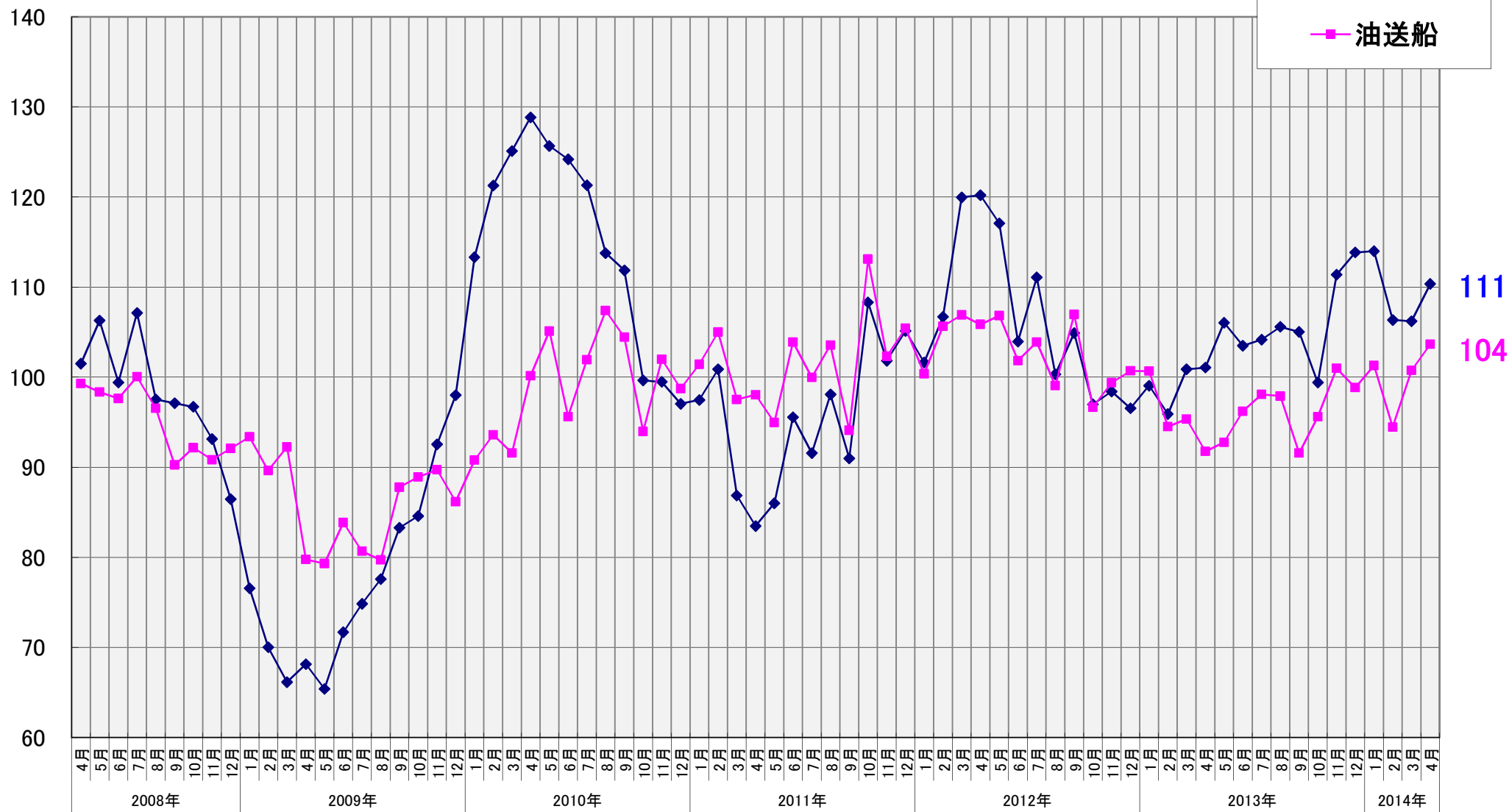
内航輸送主要元請オペ60社 【油送船】 輸送実績の推移



比率(%)

### 輸送実績の推移<前年同月対比>

- ◆ 貨物船
- 油送船

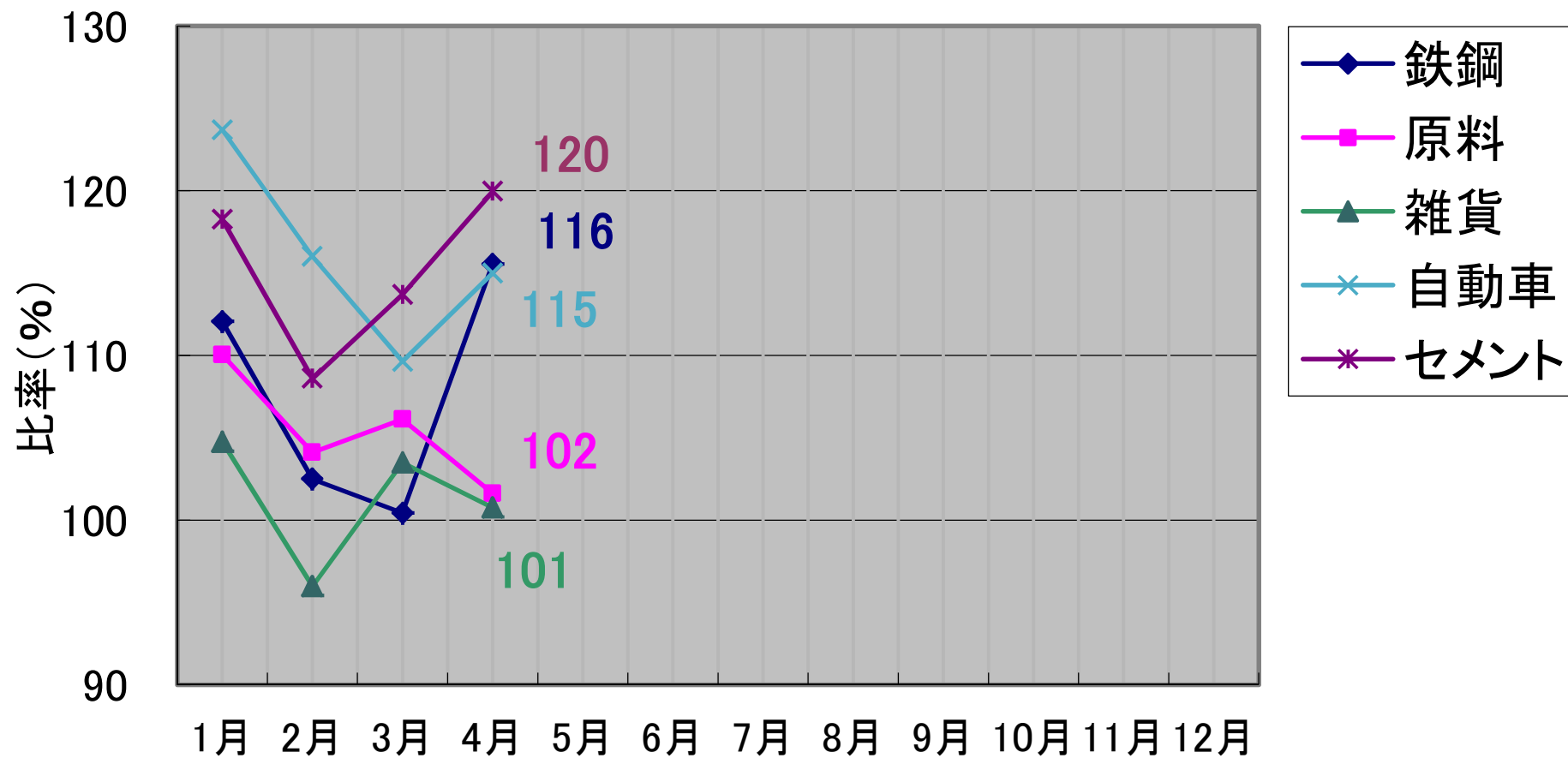


111

104

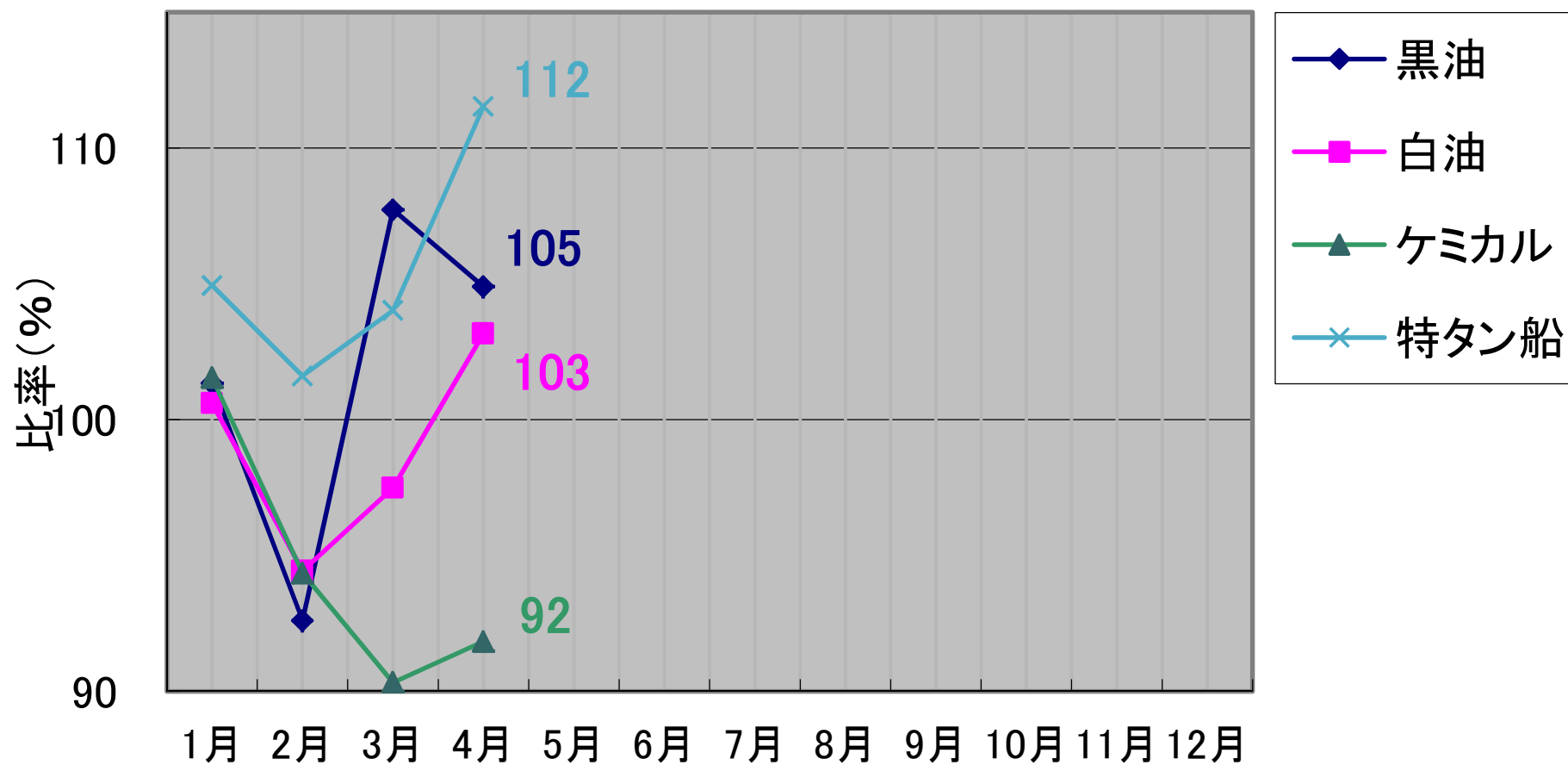
年月

【貨物船】 主要品目の輸送実績の推移<前年同月対比>



2014年

【油送船】 主要品目の輸送実績の推移<前年同月対比>



2014年